

生育中盤の水管理のポイント！

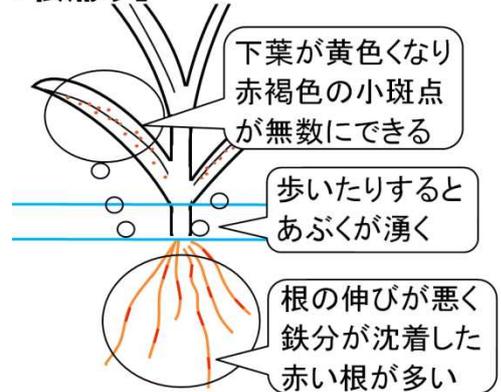
活着してから穂肥までの生育中盤は「稲の体を造り上げる」大事な時期です。生育後半（出穂後）に備えるため、適切な管理で稲の健康を増進しましょう！

中干しまでの管理のポイント

～活着してからは間断灌水が基本～

- この期間にこまめな水管理ができたかどうかで、収量と品質に差が出てきます。間断灌水で根へ酸素を供給し、元気な稲に育てましょう。
- 常時湛水していると、有毒な物質を含んだガスが湧き、根痛みします。
- 田に水をため、自然に落水してから1～2日おいて入水することを繰り返します。地中深く張る根へ水と酸素を十分に供給することで、根痛みを防ぎ強い稲が出来ます。

「根痛み」



～中干し～

中干しは、稲の余分な分げつを抑えるとともに、根の健康を保ち、収穫期に倒伏にくい強い稲をつくります。

さらに、コンバイン収穫を効率よく行うための地固めにも役立ちます。

- 300本/m²程度(右の目安参照)の茎数が確保できたら中干しを開始しましょう。
- 中干しの期間は、概ね5～10日程度です。田面に1cm幅程度の小さなヒビが入り、足跡がつかない程度が目安です。
- 幼穂を痛めないため、穂肥前には終わらせる必要があります。

① 中干し時期の目安

移植期	品種	時期
5月下旬植 (中山間)	ひとめぼれ	7月上旬
	ヒノヒカリ	7月中旬
6月下旬植 (平坦地)	ヒノヒカリ	7月下旬

② 開始時の一株茎数の目安

坪60株植 (株間18cm) のとき	16本程度
坪50株植 (株間22cm) " "	20本程度
坪45株植 (株間24cm) " "	22本程度

☆水管理のイメージ

